

取組紹介

成果の見られた学校はどんなことに取り組んだか

学力向上に成果の見られた学校における実践を紹介します。ポイントは、「①組織的かつ継続的な授業改善」、「②演習問題の活用の工夫」、「③組織的な校内研修体制の確立」です。

国語、算数（数学）の平均正答率の合計が、県平均と比較して10から20ポイント程度高い学校を複数抽出しました。

ポイント① 組織的かつ継続 的な授業改善

成果の見られた学校では、意図的、計画的な指導過程や指導形態の工夫、対話活動の充実、学級（学年）の組織づくり等の徹底した取組を通して学級（学年）集団の「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげ、児童生徒の学力を確かなものとしています。自校の授業改善の方策と見比べ、よりよい方法を検討、実践しましょう。

（参考にしたい事例）

- 授業における指導過程及び学級経営の共通理解・共通実践
 - ・ 担任（教科担任）だけでなく、学年部や教科部全員による指導方針の十分な共通理解
 - ・ 研修等における調査問題の出題意図等の確認、授業改善
- 全教科、毎時間の授業で必ず「振り返り」の時間を設定
 - ・ 文字数や行数（100字）を定め、一単位時間内での振り返り等の実施
- 国語科を中心とする長文読解、対話活動の充実
 - ・ ニュースや新聞記事等を活用した合科的な取組（総合的な学習の時間や道徳科と各教科）
- 管理職による毎日の授業の見届けとフィードバック



ポイント② 演習問題の活用 の工夫

成果を挙げている学校に共通している点は、精選と徹底です。授業における学習課題としての活用をはじめ、自校の実態と照らして、効果的な演習問題の活用方法を検討し、取組を充実させましょう。

（参考にしたい事例）

- ポイントを絞った演習問題の取組（「多くの問題を全ての子供に」から「実態に合わせた問題の精選」へ）
 - ・ 上位児童生徒用課題の作成
 - ・ 適量の課題を「継続的」かつ「計画的」（全教科、週1回以上の取組等）に実施
 - ・ 授業の学習課題への組込や朝の課題、自宅学習の課題として活用
- 児童生徒ができなかった問題をできるようにするまでの見届け（宿題、自宅学習を含む）
- 管理職及び教科主任等による見届けの徹底
 - ・ 計画表に実施後のチェック欄（教師用、管理職用）を設定
- 学年共通の宿題の取組（質的・量的な差をなくす）



ポイント③ 組織的な校内研 修体制の確立

令和2年度「学びの組織活性化」推進プロジェクトや、今年度からの「コアスクールプロジェクト」の指定校の多くが成果を挙げています。各地区で効果的な取組が実践されており、特に、研修の在り方や組織的な取組事例については、学校種を超えて活用できるものですので、是非参考にして、自校の校内研修の在り方を見直してみましょう。

（参考にしたい実践例）

- コアスクール地区指定を契機とした校内研修の研究・充実（教科の枠を超えた相互授業参観と全員参加による生徒の一人一人の学びを振り返るワークショップ型授業研究の充実）

- 授業研究の方法の見直し（子供の姿から教師の手立て等を見取る取組の継続）
- 全職員が調査問題を解く研修の実施（「求められている力」の理解）
- 毎週の学力向上委員会の開催

校種別，学校規模別の取組例



校種別の取組例

小学校

- 中学年からの問題演習への継続した取組
 - ・ 週1，2回の朝の活動15分「〇〇タイム」で，中学年から基礎・基本の徹底を継続して実施（5年生の4月から週末の家庭学習に演習問題を取り入れ，得意・不得意を超えた問題に挑戦）
- 「学年研修」の充実，学年部の「学力向上アクションプラン」策定・実践
- 家庭学習の一環としての「音読学習」の充実

中学校

- 年間を通した一人一研究授業の工夫
 - ・ 校区内の小学校，高校にも案内し，外部の視点による意見を取り入れ，授業改善を図る
- 小学校の教科担当者との情報共有を定期的（年間4回）に行い，教科指導の方向性を中学校区で揃える取組
- 安定した教科授業の実施
 - ・ 思考・判断・表現させる場面の計画的な位置付け
 - ・ 話し合い活動（聞く，話す活動），単元を通した見通しと振り返りの設定
 - ・ 静の時間（2分前着席，1分前黙想）の確実な実施による50分の授業時間の確保
- 良問に触れる機会の確保（全国の公立高校入試問題や各種調査の過去問を諸テスト等の作問の参考とする。）
- 読書量の確保（月平均で一人4冊以上）

小規模校（調査対象：1クラス以下の学校）における取組例

- 管理職による毎日の授業参観と授業者に対するその日のうちのフィードバック
- ALT来校日に合わせた月一回「イングリッシュデイ」を設定（全生徒・全教員が一日オールイングリッシュの会話に努め，楽しみながら英語力の向上を図る。）
- 全校生徒・全教諭による数楽すうがくタイムの設定（木曜日15分の数学演習及び個別の学習支援）

全ての児童生徒の学力向上に責任をもつ学校の役割を果たすために・・・

各学校においては，県教委が推進する三本柱（『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善，「計画的な演習問題の実施」，「個別指導の実施」）の取組を徹底するとともに，自校なりの課題分析に基づき，実態に応じて，主体的に児童生徒の学力向上を図ることが大切です。改めて，以下の取組例を参考に，見直しを図っていきましょう。

（参考にしたい取組例）

- 説明責任を果たす取組の実施
 - ・ 学力向上に関する保護者アンケートを年3回実施
 - ・ 家庭や学校評議員等への学力向上の取組の紹介や調査結果の報告
- 生活リズム調査（年2回実施し，家庭学習時間の把握と保護者への啓発）の実施
- 『学びの羅針盤』の「学力向上のサイクル」（pp.21-22）を活用した取組
- 学習状況，生徒指導的な内容等，児童生徒に関する日常的な情報共有